







# 変わるC型肝炎治療

相次ぐ新薬開発に期待  
「先延ばし」はリスクも



東京・武藏野赤十字病院の泉並木副院長

C型肝炎ウイルス(HCV)を体から排除する

し発熱や皮膚炎、脱毛、

まれに間質性肺炎といつ

た副作用がある。単独で

使われていた90年代は

ウイルスが検出されなく

る。「著効」の率が10

程度と低かつたが、体

に長くとどまる改良タ

イブが開発され3回

の注射が週1回で済み、

患者の負担が減少した。

▽2剤から3剤へ

2004年には飲み薬

リバビリンを加える2剤

併用療法が始まり、著効

率が約50%に向上了。

▽長く標準的治療法と

IFNは免疫を強め、

抗HCVが非常に大き

い」と泉さんによると、

IFNによる治療が勧め

られる」と泉さん。

NPO法人東京肝臓友

の会事務局長の米沢敦子

さん(53)は「IFN

とリバビリンで完治した

が、治療は6年から1

半に及んだ。高齢と強

めに心配している。

▽懸念は薬剤耐性

I FNを使わない場合、

C型肝炎に対する耐性

を獲得しやすいのではないか

という懸念がある。

年齢や肝炎の進行度か

ら、がんになるリスクは

ある程度予測できる。専

門医と相談し早い治療が

可能である。

▽IFNが薬に対する耐性

を獲得しやすいのではないか

という懸念がある。

IFNが薬に対する耐性

を獲得しやすいのではないか

という懸念がある。







